

# 生活指導の充実をめざして

## —— 児童理解のための一方法 ——

高 橋 昭 三\*

生活指導の推進にあたって、①面接、②諸検査・調査に基づいて、個別指導カードを作成し、いっそうの充実をはかっている。これは、各児童に対する指導計画とその児童に関する資料からなり、だれでもが記録できるし、また、その積み重ねによって容易に活用できるようにした。今後、カードの整備とともに活用の方法も考えていかなければならない。

### I 目 的

生活指導は、ひとりひとりの子どもに対して、その個人の持つ各種の条件に即して、個人の可能性を最大限に実現するよう援助する具体的、实际的なはたらきであるといわれている。

児童には本来の生活目標を失って安易に走り、自己制御の力を失い、真に価値観に立った生活のできないものが増えてきている。そして、このことが学校における全ての分野に関連をもち伸びやみの原因となっている。こうした問題をなくし、いきいきとした積極的な生活態度をもたせるためには、ひとりひとりの心のよりどころをもたせ焦点化された生活の目標をもたせることが重要である。そのためには、児童ひとりひとりの特徴や傾向をよく理解し、は握する必要がある。いいかえれば児童理解をいっそう深いものにすることが必要になってくる。児童をよく理解することによって、どこを伸ばすべきか、どこを改めるべきかということもはっきりしてくるし、どのような方法で指導するのが最も効果的であるかということも明らかになってくる。

生活指導は、「児童生徒理解にはじまり、児童生徒理解に終わる。」と、いわれている。いままでも児童理解のために各種の調査や方法をこころみてきたが、さらに、より深まりのあるものにしなければならない。こうした指導の手だてとして個別指導カードを整備し、常に児童個々と教師とのきめこまかなつながりを得たいと考えるものである。

### II 児童理解の方法

#### 1 本校における児童理解の姿勢

「この頃、忘れものが多くて困る。忘れ物のないように気をつけなさい。」と、頭からがみがみ注意するよりも、「忘れ物が少なくなってきましたね。」と、廊下を歩きながら肩でもたたいて話してやる方が、どれだけ子どもは意欲づけられたり、教師への信頼感、親近感を増すか知れない。学級担任はど

\* 十日町市立下条小学校教諭

んな多忙な毎日でも、児童と接する場面を可能な限り多くもたなければならないと考えている。

子どもとのちょっとした触れ合いをもたいせつにして、子どもの側に立って理解することが、本校の児童理解のあり方である。

## 2 本校における児童理解の内容

### (1) 面接による児童理解

本校には教育相談のための特別な施設もなく、また、相談のための特定時間も設けていない。学級担任は、日常の教育活動の中で、あらゆる機会に受持ちの子どもの実態をとらえて、ひとりひとりの個性や能力、適正などの伸長をはかり、人格の完成に努力している。そのために学級担任は、調査や各種のテストなどの資料をじゅう分持って、その活用をはかりながら児童の指導に当たってはいるが、これでは教師中心の児童理解でしかない。

そこで、面接という手法をとおして、子どもの悩みを聞き、問題の所在を知ったり、情緒不安定な理由を聞き出すことができれば、子どもにとってはどんなにプラスになるか知れない。カウンセリングの専門家でない学級担任が、専門的な知識を持たなくても、学級担任の特質である「いつでも」「どこでも」「だれとでも」面接ができる。この活用をはかることによって、児童中心の理解ができるのではないだろうか。それには

#### ① 自由に話せるふん囲気をつくる。

面接を始めるからといって「さあ、話そう。」と、いっても子どもは話すものではない。子どもが自由に話せるようなふん囲気を日常の学級経営の中で築き上げておく必要がある。

#### ② 話したくなるふん囲気をつくる。

話のきっかけをつくることがたいせつである。教師の質問に答えさせるのではなく、行動観察の結果を資料としたり、作文の内容を話させたり、行動の記録を書かせ、その中から面接のきっかけをくふうしなければならない。

#### ③ 先入感を持たない。

「この子は乱暴で」とか「忘れものが多くてこまった子だ」と、きめつけるのではなくありのままの子どもの姿を受け入れて、その中から子どもの内面を知ることが必要である。

#### ④ 功をあせらない。

とかく「こうなんだ」「こうしなさい」と、いうように教えたり、指示したりしがちであるが、相手の立場をよく聞いてやり、自分で解決の糸口がつかめるように助言してやる。

### (2) 標準検査やテストの実施

- 集団知能検査 毎年1, 3, 5年に実施
- 標準学力テスト 毎年4月に2年生以上に実施
- 個別知能検査(WISC) 特殊学級入級児に実施
- ゲス・フー・テスト
- ソシオメトリック・テスト

## (3) 調査による方法

- 家庭環境調査      全学年に実施
- 家庭訪問，面接調査

## (4) カードシステムによる資料の整備

- 生活指導計画一覧表      45年度

個々の生活指導上の要点を記入し，その児童の課題や生活目標を含めた。主として，教師と児童の関係確立に役立て，また，全職員が全児童を知ることを行ないとした。

（表1）

生活指導計画一覧表      年      組

氏 名	部 落	児童の特徴	生活目標	生活指導の重点	趣味，その他

- ・ この表にある項目の他に，保健上特に注意しなければならないことや，学級集団内における位置等を記入する。
- ・ 児童の特徴は，その児童の外面的な生活の傾向を端的にあらわす。
- ・ 趣味は直接児童から聴取したもので内容をそのまま記入し，児童の気持ちを引きたたせ，抑圧をやわらげるので共感に役立つ。
- 個別指導カード
 

生活指導一覧表をさらに拡充する方向ですすめているが，特に焦点化された生活のめあてをもたせること，さらに個別指導の範囲を拡げることとした。また，このカードによって子どもの変容と，教師と子どもの接し方がわかり，教師自身の反省資料となる累加記録である関係から，担任が変わっても子どもを理解する資料となることをねらいとしている。

  - ・ 児童に生活のめあてをもたせるとき，教師のもっているねがいや学級の目標等の細目をとおし設定することにした。
  - ・ 児童の目標は単なる題目でなく，それを達成しようとする意欲である。したがって，与えられためあてであっても，それを達成する内容によってはじゅう分自分のめあてとなり得るし，教師の構えが大きく関連してくると考えられる。
  - ・ この個票は，主として，教師が持っているものであり，児童と共用にはならない。したがって，目標達成のための記録は児童用がもう一部必要になってくる。
  - ・ 担任だけでなく，だれでもかけるようにする。
  - ・ 年度のつみ重ねに問題がある。

(表2)

個別指導カード (表)

下条小学校

写 真	概 況	年 組 氏 名			番 号		
		現住所・町名			続 柄		
		家 族      ○印	祖父	父	兄弟成人	名	
			祖母	母	兄弟小中	名	
		その他必要事項					

  

学 力	知能検査								
	学 習	国 語	社 会	算 数	理 科	音 楽	図 工	家 庭	体 育
	学力検査								
	成 就 値								

  

健 康	体 位							
	健康状態							
	保健習慣							
	体 力	50m走	走 巾	ボール投	けんすい	ドリブル	持久性	さか上り

  

生 め 活 あ の て	目立った性格		
	児童生活目標		
	目 学 習		
	標 主 活		

  

個別指導の記録			
月 日	目立った事実	指導の内容	児童の変容

個別指導の記録 (裏)

月 日	目立った事実	指導の内容	児童の変容

### Ⅲ 指導と結果の考察

#### 1 仮病ぐせのある児童の指導

##### (1) 問題の概要

- 4年生のころから頭痛、腹痛などを訴え保健室に時々いつている。5年生の時は前年にくらべて少なくなっている。
- 6年生の4月中旬より、ある授業になると頭痛、腹痛、足がいたい等の理由で保健室に行きその時間休養することが目立つようになった。

##### (2) 本人の状況

- 知能偏差値 61, 教研式学力検査(偏差値) 国語54, 社会54, 算数63, 理科54
- 4年生の時, 頭痛, 腹痛, 足筋肉痛を訴えている。欠席なし。
- 5年生の時, 左足筋肉痛を訴え, 医師の診断を受けたが原因がはっきりしていない。通院で2日欠席。
- 運動能力は優れており体育は得意である。
- 6年生4月より児童会長として活躍しており, 級友からも信頼されている。

### (3) 家庭環境

父親は会社勤め, 母親は雑貨商を経営している。きょうだいには兄(中学生)と妹(1年生)があり, 家族5人ぐらし。父親はあまり子どもの教育には関心がなく母親まかせである。母親も店を経営しているということから, こまかなところまで手が届かなかったようである。

### (4) 指導の経過と考察

- 担任と養護教諭とがじゅう分連絡をとったこと。
- 家庭訪問をし, 母親に子どもの接し方について平等にするよう要請したこと。
- 宿題等を忘れてきた場合, 勇気をだして正直に担任に申しでるように指導したこと。

問題行動の治療も身体の病気の治療と同じである。どこが問題なのかを早く見つけて手当することである。彼の場合は, 母親の愛情が第一子, 三子に集まり彼にはあまりとどかなかったことが原因で, 保健室に行けば養護教諭からやさしいことばをかけてもらえると考えたのである。欲求不満ということがわかり, 仮病で保健室に行った場合は「今日は水泳があるのでしょう。保健室で休んでいると水泳ができないでしょう。」と, いうように刺激し勇気づけてやるとか, 家庭訪問では母親に問題行動を話し, 母親も今までのことを反省し, 子どもに対する接し方を平等にしていだきたいことなどにより6月ころより彼を好転させることができた。

## 2 個別指導の記録から

### O. T (5年生)

月 日	目立った事実	指導の内容	児童の変容
4	衣服の着かたが悪い 清潔観念がまったくなく問題がありすぎる。宿題はほとんどやってこない。	正しい着かた	5月末ころからよくなった。
7. 14	十日町へ自転車で行ってもよいかと上新田から電話をする。	国道での自転車乗りは許可しないと話す。	
7. 15	水泳時間にきまりを守らないので注意すると号泣する。	生命に関するものは絶対に守らなければならないことを話す。	水泳時間はよくなった。

#### IV 今後の課題

子どもを知るということは、教育の根本である。わたしたちはともすると、教師というある一方的な立場からのみ子どもたちを見、子どもたちに接してきたのではなかったろうか。また、子どもたちをわかりつけたり、説教したりして、その場を過ごしてきてはいなかったろうか。素直に反省すると、その場では解決したかと思われるが、子どもの側では、教師に対して、自分の気持ちを知ってくれないという不満を持ててはいなかったろうか。子どもたちをほんとうにたいせつにしていたかというか疑問である。そこで「児童を理解しよう。」それには、子どもと教師とが可能な限り触れ合うことができれば子どもたちはどんなに幸せであろう。子どもたちは、自分を知ってくれたということで毎日の生活に自信をもって行動するのではないだろうか。

個別指導カードによる児童理解という方法を考え、実施して約半年間経過した現在、職員の意見もいろいろあった。しかし、多忙であるからといって、児童を理解しなくてもよいというのではない。少しでも、個々の児童について正しく理解しなくてはならないという前向きな姿勢が感じられるようになった。

個別指導カードについても問題がある。今後それらを修正し、児童の行動面、それに対する指導過程が正確にわかるようなものにしたいと思っている。

#### 参考文献

- ・文部省 生徒指導の手びき（1965）
- ・新潟県教育庁指導課 生活指導資料 第5集